

—Senzoku Gakuen College of Music—

WORLD MUSIC COURSE presents

洗足学園音楽大学

ワールドミュージックコース サマーコンサート

2022年7月9日(土)

開場 14:30 / 開演 15:00

シルバーマウンテン2F (ブルー)

主催：洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

プログラム

【第1部】

I.アルベニス / 組曲《スペインの歌》Op.232 より「コルドバ」

小林愛美 伊藤陽夏 (ギター)

I.アルベニス / 組曲《スペイン》Op.165 より「タンゴ」

楊江虎 (二胡) 石川菜々子 (ギター)

M.ファリャ / スペイン舞曲 第1番 オペラ「はかなき人生」より

小林愛美 中根康美 (ギター)

H.ヴィラ=ロボス / ブラジル風バッハ 第5番 より「アリア」

村山実裕加 (マンドリン) 伊藤陽夏 (ギター)

C.マシャド / パソーカ

楊江虎 (二胡) 小林愛美 (ギター)

M.シュトラウス / 《五つの音色》より「青色」「赤色」

小長井翼 村山実裕加 (マンドリン)

A.ピアソラ / 《タンゴの歴史より》より II Café 1930

島田龍輔 (マンドリン) 片山柊 (バンドネオン)

A.ピアソラ / ブエノスアイレスの夏

小長井翼 島田龍輔 村山実裕加 (マンドリン)

小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏 中根康美 (ギター)

楊江虎 (二胡) 片山柊 (バンドネオン) 森愛竜 (ピアノ)

【第2部】

F.ソル / モーツァルトの「魔笛」の主題による変奏曲 Op.9

井上仁一郎 (ギター)

W.A.モーツァルト / ピアノ・ソナタ 八長調 KV545

増田達斗 (ピアノ)

W.A.モーツァルト / ヴァイオリン・ソナタ ト長調 KV301(293a) より 第1楽章

村山実裕加 (マンドリン)

増田達斗 (ピアノ)

J.ハイドン(フェルナンデス編曲) / 弦楽四重奏曲 Op.42 / HobIII:43 より 第3楽章

伊藤陽夏 井上仁一郎 (ギター)

W.A.モーツァルト / グラスハーモニカのためのアダージョ 八長調 KV356 (617a)

片山柊 (バンドネオン)

J.ハイドン(フェルナンデス編曲) / 弦楽四重奏曲 Op.42 / HobIII:43 より 第1楽章

小林愛美 井上仁一郎 (ギター)

W.A.モーツァルト / ディヴェルティメント ニ長調 KV131 より 第1楽章

小長井翼 村山実裕加 (マンドリン)

小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏 (ギター)

片山柊 (バンドネオン)

曲目解説

第1部

I.アルベニス / 組曲《スペインの歌》Op.232 より「コルドバ」

イサーク・アルベニス (1860-1909) はスペインの作曲家、ピアニストです。1880年代末から90年代中頃にかけて、5曲からなる《スペインの歌》Op.232という組曲を作曲しました。「コルドバ」はその中の4曲目に当たります。冒頭は、古都コルドバの名所、古寺を思い浮かべるような鐘の響きから始まり、リズムカルな伴奏となだらかなメロディーが特徴的です。スペインのギタリスト、エミリオ・プジョール (1886-1980) によって編曲されたギターデュオで演奏いたします。2台のクラシックギターの持つ繊細で包み込む音色をお楽しみください。

(伊藤陽夏)

I.アルベニス / 組曲《スペイン》Op.165 より「タンゴ」

「タンゴ」ニ長調は1889年~90年にかけてイサーク・アルベニスによって作曲された、ピアノのための組曲《スペイン》の一曲で、さまざまな楽器用の編曲がなされています。ニ長調、4分の2拍子、アンダンティーノ (歩く速さよりもやや速めに)、ハバネラの心地よい南国のリズムとメロディーに乗せた旅情あふれる人気の曲です。ワールドミュージックコースでもご指導いただいているギタリスト・中根康美先生の編曲により、二胡とクラシックギターで演奏致します。

(石川菜々子)

M.ファリャ / スペイン舞曲 第1番 オペラ「はかなき人生」より

オペラ「はかなき人生」は1913年、フランスのニースにて初演されました。舞台はスペインのグラナダ。ジプシーの娘サルーと、上流家庭のパコとの間に描かれた悲しい恋の物語です。

第1幕、パコはサルーの元へやってきて愛の言葉を交わしましたが、後にサルバオール叔父の口から「パコは上流階級の娘カルメラと結婚式を挙げる」ことを告げられます。第2幕冒頭ではその結婚式の場面から始まり、サルーとサルバオールは中へ入っていきます。サルーはパコに向かって「私を殺して」と叫びますが、それに怒り狂ったパコは「この女を突き放せ」と言います。サルーはその言葉を聞きあまりのショックで息絶えてしまいます。「スペイン舞曲第1番」は第2幕の結婚式の場面で演奏されます。挙式という場面に相応しく、華やかで情緒的な印象の中に物悲しく哀愁漂うフレーズの数々は、劇中のサルーとパコの身分違いの恋の儚さや、愛する恋人に裏切られた悲しみを彷彿とさせます。

本日はこの「スペイン舞曲第1番」を、今日まで世界中で親しまれているエミリオ・プジョール編のギター二重奏バージョンでお届けします。スペイン情緒溢れるファリャの音楽を、ギターの音色と共にお楽しみください。

(小林愛美)

H.ヴィラ=ロボス / ブラジル風バツハ 第5番 より「アリア」

エイトル・ヴィラ=ロボス (1887-1959) はブラジル出身の作曲家です。アマチュア音楽家であった父親とピアニストであった叔母から音楽の手ほどきを受け、チェロ、ギター、クラリネットなどの楽器をマスターしていきました。幼い頃から彼の叔母がJ.S.バツハの《平均律クラヴィーア曲集》を弾いて聴かせていたことは彼の音楽に大きな影響を与えたとされています。独学で作曲を学び、民族音楽や民族文化について興味を持って学んでいた彼の作品は独創性に溢れています。なかでも今日最もよく演奏されるのが《ブラジル風バツハ (Bachianas - Brasileiras)》です。ブラジルの民族音楽とクラシック音楽の融合を試みた作品で、楽器編成が異なる9曲の連作となっています。複数の楽章で構成される9曲のそれぞれの楽章には副題が付けられており、その多くはブラジルのものを想起させるものです。バツハの作風や技法、形式を意識しつつもブラジルの民族音楽の素材が存分に活かされています。本日演奏致します第5番の「アリア」は、ソプラノ独唱と8声部のチェロ合奏のために書かれています。ヴォカリーズによって紡がれる叙情的な旋律は歌詞がつく壮大な中間部をより一層引き立て、その後旋律がハミングによって静かに歌われていきます。本日はギターを愛し好んで弾いていたヴィラ=ロボス自身によるソプラノとギターのための編曲版をマンドリンとギターの二重奏で演奏いたします。原曲とはまた違った味わいの「アリア」をどうぞお楽しみください。

(村山実裕加)

C.マシャド / パソーカ

セルソ・マシャド (b.1953 年) はブラジルのワールドミュージックギタリスト、パーカッション奏者、多楽器奏者。彼は現在までの 40 年間、ブラジル、西欧、カナダ、アメリカで幾度も公演を行い、教師、作曲家、レコードアーティストとしても活躍しております。本日演奏するパソーカは、最初はフルートとギターのために作られましたが、今回は二胡とギターで演奏させていただきます。そのメロディーは個性的で、非常に特色のあるブラジルのリズムに富んでいます。

(楊江虎)

M.シュトラウス / 《五つの音色》より 「青色」「赤色」

この曲は、ドイツの作曲家であるマルロシュ・シュトラウスによって作曲されたマンドリン二重奏曲です。今回は 5 つある楽章の中から 2 曲を選びました。最初にお送りするのは、終始ゆったりとした 2 拍子の「青色」。次に、冒頭から不協和音と変拍子が登場するエネルギッシュな「赤色」です。曲から感じられる色を思い浮かべながらお楽しみいただければと思います。

(小長井翼)

A.ピアソラ / 《タンゴの歴史より》より II Café 1930

20 世紀全般にわたり活躍したアルゼンチンのバンドネオン奏者、アストル・ピアソラ (1921-92) の作品。組曲《タンゴの歴史》は、ピアソラの唯一のフルートとギターのための作品で、タンゴという音楽が出来てからの約 100 年間の時代や文化の移り変わりを 4 楽章で描いた作品です。リエージュ国際ギターフェスティバルにて初演されて以降、マリンバやヴァイオリンなど、さまざまな編成で演奏されている楽曲ですが、マンドリンとギターという編成でも、ドイツや日本を中心に愛奏されてきました。今回はマンドリンとバンドネオンの編成で演奏いたします。

(島田龍輔)

A.ピアソラ / ブエノスアイレスの夏

アルゼンチンのバンドネオン奏者アストル・ピアソラが 1965 年に舞台のための付随音楽として委嘱され作曲したタンゴです。その後「春」「秋」「冬」の 3 曲が追加されて「ブエノスアイレスの四季」として 4 部作となりました。ピアソラ自身が活動の拠点として重視したキンテート (五重奏) という編成のために作曲された版でお聞きいただきます。ワールドミュージックコースの全ての奏者によるアンサンブルをお楽しみ下さい。

(山田武彦)

第2部

F.ソル / モーツァルトの「魔笛」の主題による変奏曲 Op.9

ギターを学ぶ人には欠かせない古典的作品の一曲である。モーツァルトの歌劇《魔笛》の中の歌—第1幕第17場、鈴の音をきいたモノスタスらが歌う Das klinget so herrlich—をもとに主題が作られている。しかし、ソルの変奏曲の主題には、このモノスタスたちの歌う歌は、直接そのままの形では用いられてはいない。モーツァルトが書いた旋律に多くの倚音が加えられ、より表情のある旋律となっている。このソルの主題は、《魔笛》のフランス語翻案オペラ《イシスの神秘》に現れる〈Soyez sensibles〉や、《魔笛》の旋律の編曲とされる〈O dolce contento〉の旋律形が用いられたと見られている*。いずれにしてもこの魅力的な主題をもとに、5つの変奏が展開され、ギターの幅広い表現力を堪能することができる作品となっている。また、主題の前にはホ短調で書かれた Introduction—序奏がおかれている。複付点のリズム音型をもつ和音が鳴らされながら荘重に開始され、その後、旋律は3連符による和音の連打を伴い、緊迫しながら順次上行していく。休符をはさみ順次下行に転ずるが、今度は内声部に感傷的な気配を感じる半音階の音型が現れる。これらの劇的な作曲手法がとられた序奏のおかげで、あとに続くホ長調での主題と変奏が一層輝かしく感じられると言えよう。

*参考文献：小川和隆「変奏曲から探る19世紀ヒット・メロディー第7～8回」『現代ギター』2017年11～12月号

W.A.モーツァルト / ピアノ・ソナタ 八長調 KV545

ピアノを学ぶ人には親しみ深い作品。作曲家自身が自作品目録に「初心者のための小ピアノ・ソナタ」と記したように、コンパクトな作品である。しかしながら、作曲されたのは三大交響曲（第39番、40番、41番）と同年であり、作曲家として円熟していた時期である。3つの楽章ともすべて短い簡潔な構成がとられ、演奏面での困難さはほぼないものの、随所に巧みな手法が用いられている。

第1楽章：ソナタ形式 清楚な第1主題と軽快な第2主題から成る。短調での短い展開部のあとの再現部への移行の手法は、注目すべき点である。すなわち第1主題が下属調のへ長調で現れ、続く第2主題で主調の八長調にもどるのだが、このような主題の旋律的再現と調の再現のずれにより、展開部と再現部の境界がぼかされている。こういったところに、聴衆の耳は惹きつけられていく。

第2楽章：3部形式 穏やかなト長調の主題が、その旋律を変形しながらよどみなく流れていく。中間部では、ト短調を中心とした複数の調へ転調し陰影と緊張感をもたらしている。

第3楽章：ロンド形式 3度下行の特徴的な音型をもつユーモラスなロンド主題と、対照的な性格をもつ2つの副主題によって繰り広げられていく。

W.A.モーツァルト / ヴァイオリン・ソナタ ト長調 KV301(293a) より 第1楽章

モーツァルトが、ヴァイオリンとピアノ（チェンバロ、フォルテ・ピアノといった鍵盤楽器）のために作曲したソナタは、作曲の時期によりそれぞれの楽器の役割が大きく異なっている。1763年頃に書かれたヴァイオリンソナタの最初期の作品は、ピアノパートにヴァイオリンが任意につく形で、ピアノ独奏で弾いても楽しめるものであった。そのため、ピアノには華やかで技巧的なパッセージが書かれている曲も多いが、1778年を境として、しだいにヴァイオリンの重要性が増していくことになる。

本日演奏されるト長調のソナタは、ピアノ中心のスタイルから変化し始めたまさにその1778年の作品である。ソナタ形式の第1楽章では、以前にも増してヴァイオリンに重きがおかれ、冒頭に現れる第1主題の旋律部をヴァイオリンが奏し、ピアノは伴奏を担っている。とはいえ、この作品ではまだ、2つの楽器が完全に対等であるとは言えず、第2主題をはじめとして、ピアノ主導で進んでいく箇所も多い。しかし、あるときは対話し、またあるときは協調しあう両者の絶妙なバランスが見事な作品となっている。

J.ハイドン(フェルナンデス編曲) / 弦楽四重奏曲 Op.42 / HobIII:43 より 第1楽章、第3楽章

モーツァルトと並ぶ古典派音楽の代表的作曲家であるハイドンは、交響曲、ソナタ、弦楽四重奏曲などの形式を確立し、膨大な数の作品を残している。神童として幼いころから活躍していたモーツァルトが、最も尊敬していた同時代の作曲家がハイドンであり、モーツァルトはハイドンに「ハイドン・セット」という6曲の弦楽四重奏曲を捧げている。このことから、モーツァルトがハイドンの音楽にさまざまな作曲のアイディアを見出し、大きな刺激を受けたことをうかがい知ることができる。また、同様にハイドンもモーツァルトの才能を高く評価していた。ハイドンがすでに大家として活躍していた1785年に作曲されたこの弦楽四重奏曲は、4楽章構成となっており、各楽章とも短く明快にまとめられている。そして、音によってさまざまな感情を表現していくハイドンの楽想の豊かさが感じられる作品である。

本日は、ギター二重奏用に編曲された版を使い、第1楽章と第3楽章を演奏する。

第1楽章：ソナタ形式 哀愁を帯びた短調の第1主題の各動機をもとに曲が展開されていく。第2主題は第1主題を形成する動機の一つから作られ、平行調で提示される。展開部では、第1主題が2つの楽器ごとの模倣により展開された後、徐々に4つの楽器間の音域を広げて、属調のVの和音へ到達する。その後第2主題が展開され、再現部へ進んでいく。

第3楽章：3部形式 穏やかでゆったりとした主題の旋律が、控えめな和声に支えられ、誇張することなく自然に歌われる。純朴な旋律がどこことなくぬくもりを感じさせる。

W.A.モーツァルト / グラスハーモニカのためのアダージョ 八長調 KV356 (617a)

モーツァルトの最晩年の作品であるこの曲は、盲目のグラスハーモニカ奏者、マリアンネ・キルヒゲスナーのために作曲された。この楽器を含めた五重奏曲とともに、アンコール用の独奏曲として書かれたものとされる。わずか28小節の小品であるが、シンプルな曲の構成と旋律に、和声が繊細な彩りを加え、慎み深くも美しい音楽となっている。

W.A.モーツァルト / ディヴェルティメント 二長調 KV13 より 第1楽章

「セレナード」「ディヴェルティメント」は、「機会音楽」として、つまり、卒業式、結婚式、誕生日といった祝賀の行事のために作曲されていたと考えられる。ただし、お聴きいただくこの曲が、具体的にどのような機会のために作曲されたものなのかはわかっていない。6楽章で構成されているが、本日は第1楽章のみを演奏する。

第1楽章：ソナタ形式 全楽器のユニゾンによる二長調の主和音の分散和音から華やかに第1主題が開始される。属調のイ長調の第2主題を経て、突然連続して聞こえてくる2つの減七の和音はきわめて印象的で、モーツァルトの一つの語法である、短いスパンでの強弱の変化とともに、音楽にドラマチックな抑揚をもたらす効果を持っている。

(第2部曲目解説 大江千佳子)

出演者紹介

中根康美 (なかね やすみ)

ドイツ国立ケルン音大卒。東京国際ギターコンクール入賞。

文化庁の助成によるスクールコンサートや、NHK 教育テレビに出演するなど、ソロ、アンサンブル、歌曲伴奏など幅広いジャンルで活動。

CD「吉松隆 優しき玩具」を現代ギター社より、フルートの故田中潤一氏との「タンゴの歴史」をアルケミスタより、ケルンギターカルテット「耳に残るは君の歌声」「君住む街角」をコジマ録音より各リリース。

GG 学院、洗足学園音楽大学客員教授。

井上仁一郎 (いのうえ じんいちろう)

ナイロン弦を用いたフィンガーピッキングスタイルで多様な音楽を演奏するギタリスト。幼少からピアノやヴァイオリンを学び、16 歳からクラシックギターを始め、秋山智樹、原善伸の両氏に師事。日大芸術学部を卒業後ヨーロッパ各地で研鑽を積む。

第 39 回クラシカルギターコンクール優勝他、国内外多数のコンクールで上位入賞。日本ギタリスト協会委員、神奈川ギター協会副委員長。

教員免許を有し、洗足学園音楽大学、相模原弥栄高校、慶應義塾高等部などで後進の指導も行う。

CD リリース『Octavo』『Homenajes』『Segundo』『romances』『GuitArr』など。

増田達斗 (ますだ たつと)

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院音楽研究科ピアノ専攻修士課程修了。ソロ・室内楽・作曲の各分野に渡り多彩な活動を展開中。

シェーンベルク：《月に憑かれたピエロ》他収録の CD を日本コロムビアよりリリース。ダンサーのイスラエル・ガルバン演出・振付・ダンスによるストラヴィンスキー：《春の祭典》日本ツアーにピアニストとして参加。

作曲家団体《NODUS》メンバー。アートサロン《アトリエ・アッシュ》メンバー。

洗足学園音楽大学非常勤講師。

ワールドミュージックコースサマーコンサート 2022

- コンサート企画 アカデミックプロデューサー：大江千佳子
- 指導教員：中根康美 山田武彦 井上仁一郎 増田達斗
- 学生インスペクター：小林愛美 小長井翼
- アカデミックコーディネーター：牛頭真也